

タウンミーティング（庄内地区）開催報告

- 日 時 令和元年10月9日（水）19時30分から21時13分まで
- 場 所 庄内公民館 2階大会議室
- 参加者 庄内地区連合自治会長、河之内自治会長、宮之内自治会長、黒谷自治会長、庄内小学校長、庄内老人クラブ会長、庄内婦人会長、庄内小学校PTA会長、庄内愛護班会長、学識経験者2人、JA周桑庄内支所長、青少年補導委員理事、庄内地区健康づくり推進員市長、経営戦略部長、危機管理監、東予総合支所長、危機管理課長、地域防災アドバイザー、シティプロモーション推進課長、広聴係長、東予総合支所総務課長、総務調整係長、庄内公民館長（司会進行）、庄内公民館主事
- 傍聴 2人
- 次 第
 - 1 開会
 - 2 挨拶（庄内地区連合自治会長）
 - 3 挨拶（市長）
 - 4 市の主要事業について《市提案》
 - (1) 主要事業の説明（市長）
 - 5 地域課題「介護施設への入居」について《地域提案》
 - (1) 地域からの提案説明
 - (2) 意見交換
 - 6 参加者自己紹介
 - 7 地域課題「地域防災対策」について《市提案》
 - (1) 課題等の経緯等内容説明（地域防災アドバイザー）
 - (2) 意見交換
 - 8 まとめ・閉会
 - (1) まとめ（市長）
 - (2) 挨拶（庄内地区連合自治会長）

○会議録

1 挨拶

【連合自治会長】

こんばんは。仕事などでお疲れの中ご出席いただき感謝する。このタウンミーティングは、西条市連合自治会と市が主催となり、市長に地元へおいでいただいて、市の現状や今後の市政方針の説明に加え、地域住民と市と一緒に地域の課題について話し合うことで、私たちの声を活かした地域づくりを行うことを目的としている。

事前に各代表から課題等を提出していただき、その中から今日は、次第にもあるように、「介護施設への入居」についてと「地域防災対策」について話し合う。

今回は、地域課題を市長も交えて、地域の皆で話し合い、各団体それぞれの意見を共有することを目標に、次回につながる会議を皆様の協力をいただきながら進めて参りたいので、よろしくお願いする。

【市長】

皆様こんばんは。本日はタウンミーティングの開催にあたり、庄内地区のステークホルダーの皆様にご出席をいただき感謝を申し上げます。

このタウンミーティングは6月22日からスタートし約5ヶ月間で28地区を回っている。

庄内には庄内の、他の地区にはその地区の課題があり、同じ状況ではないし、人口の構成も変わってくることから地域が抱える課題は複雑多様化してきている。その課題に行政はもとより、地域の皆様と一緒に解決に向けて動いていきたいとの思いがあり、加えて皆様から出していただく課題について、来年度の予算に反映すべきは反映していこうとの思いもあり、6月からスタートをさせていただいた状況である。

限られた時間だが、会長からもあったように次回につながる会にしたい。

私たちは皆様の声をお聴きしたいので、様々な広聴活動も取組んでいる。より良い西条にしていきたいと強く思っているので、お付き合いの程、よろしくお願い申し上げます。

2 市の主要事業について《市提案》

(1) 主要事業の説明

【市長】（参照別紙資料（1））

3 地域課題「介護施設への入居」について《地域提案》

（1）地域からの提案説明

【参加者】

発表内容について間違いがあればお許しをいただき、介護について問題提起をさせていただきたい。

一段と高齢化が進展する中で、介護の取組は益々重要性を増し、利用者お一人お一人が自分らしく日常生活を送れるように必要なサービスを提供し、支えるのが介護だと私は思っている。車イスの方が歩行器を使って歩ける、流動食しか摂れなかった方がしっかりと自分の口で噛んで食べられる、これが介護だと思っている。

今日、介護保険制度の見直しに向けた議論が盛んに始まっている。給付と負担の見直し、介護の現場では人手不足、待遇改善など働きやすい環境作りを急がなければならないと言われている。

このような大きな動きの中、ある高齢者から介護施設になかなか入所できないと相談を受けた。勉強も兼ねて、西条管内の特別養護老人ホーム、介護老人保健施設を中心に11箇所の介護施設を訪問し、入所申込書をいただき、なお3箇所の介護施設を見学させていただいた。

高齢者の方々がユニットで生活をしており、車イスで寝ている方、じっと座っている方など色々な方がおられたが、自分も近い将来、このような所に入所するのかと考えた時、寂しく思った。見学した日が悪かったのか、介護職員が少なく入所者に対しての介護が十分できていないように感じた。

そこで1つ目に、入所できない実態と解消方法について、また、介護職員の研修体制についてお尋ねする。特にリハビリの内容と頻度、リハビリの専門職員等のスタッフの人員配置はどのようになっているのか、また医療面の体制で、特に夜間の緊急対策の実態についてお尋ねする。

ケアプランを作成するケアマネージャーと、実際にユニットで仕事をするスタッフの間には大きなずれがあるように私は思う。計画は立派だが、実績が挙がっているのだろうか疑問を持つ。介護計画作りや介護職員の指導はどうなっているのか尋ねる。

2つ目は、地域包括支援センターと社会福祉協議会の在宅福祉課の仕事の違いをお尋ねする。資料によると、センターの仕事は色々な相談を受け付ける介護予防と健康作りの支援と、皆さんの財産や権利を守る取組、地域のネットワーク強化と活用等々となっている。

一方、社会福祉協議会の在宅福祉課の仕事は、介護支援事業、ケアプラン作成、訪問介護事業、身体介護や家事などの手伝い等を中心に仕事をされていると示されている。

計画が立派でも取組の中身が大切。あれをやります、これをやりますと言うが、どのような取組を行い、成果を出し、残された課題は何か、評価委員会や入所者を交えた活動成果の報告会などの設置を考えてみてはどうか。

施設サービス計画書が施設にはある。確かに見た限りは立派だが、活動の成果が挙がっているのだろうか、利用者側として心配なことがたくさんある。計画や立案が立派でも、本当に入所されている方が喜べるような成果や実績が挙がるような活動ができているのだろうか。関係機関へご指導いただきたい。

【市長】

申し訳ないが、細かい部分に関する内容なので、回答書だけでは網羅できていない部分がある。今一度、確認した後日回答したいと思うのでご容赦いただきたい。

介護施設の関係は、今の状況を把握しながら、どの施設が今後必要になるか、というようなことを3年に1度見直しをさせていただいている。

そういった中で、介護職に就く人が少なくなっている状況の今、インドネシアからの介護福祉士を受入れることになっている。日本人もそうだが、サービスの提供が水準に達するように施設運営者も頑張ると思うが、ご不満も出るかもしれない。

また、介護保険料にも触れていただいたが、本人の所得と世帯の課税状況により、9つの保険料段階を設定している。基準額は年73,600円で、保険料は3年に1度見直しを行っている。

65歳以上の方の介護保険料で、全体のサービス費の23%を担っているため、見直し時に当然のことながら皆様の介護保険料が上がっていくことになる。それをも了解というようなことであれば、介護サービスの水準を上げることが可能だと思う。

逆に言うと、西条市は県内11市の中9番目の比較的安い介護保険料になっているので、だからサービスが悪いのかというようなことになれば、少し介護保険料を上昇させていただいてサービスを上げていくということも検討していかなくてはならない。おっしゃるとおり、給付と負担のこの駆け引きというか引っぱり合い、ここをしっかりとバランスをよくやっけていかなくてはならないと思っている。

ご質問の答えにはならないかもしれないが、介護保険について市民5千人を対象にアンケート調査を

したが、保険料が高くなっても介護の水準を上げることが希望する方は、実に6.5%しかいない。それ以外の方は、保険料を上げずに現状維持、サービスの向上よりも保険料が上がらないことを希望するという結果が出ている。一方で市民の皆様、あるいは声なき声をしっかり拾い上げるのが我々行政だとは思っているので実際に困っている人に手を差し伸べることができるように、市としてはサポートしていきたい。

片方で地域包括ケアサービスを開始し、とにかく健康な方を増やし、施設に入らないようにできるような仕組みも考えていかななくてはならない。そして、お世話になる方については、施設の水準をキープしながらやっていきたいと思う。

今日は福祉の専門職員が出席していないので、少し抽象的なことになって申し訳ないが、一人ひとりを大切に市民ファーストということを書いており、しっかり市民の皆様のサポートをしていく、これは変わらない。

【参加者】

私は介護施設を10箇所くらい回ってみて、施設サービス計画書は非常に立派なものが出来ている。例えば、週入浴は5回とか、リハビリを積極的にすると書かれているが、実際ユニットに上がって高齢者と接触して、7年間勤務された介護職員の方とも2時間かけて話を聞いてみても、非常に計画と実績には矛盾があると強く言われた。

人員の問題や給料の問題等色々あるかと思うが、もう少し計画に近づけるような活動、サービスをしていただきたいと思っている。市長の温かい回答をいただき感謝する。

【市長】

おっしゃるとおり、どの事業でもそうだが、計画は夢物語を書いてもしょうがない、いかにその実績を挙げていくかというのが大切なことだと思っている。

介護施設は県からも指導を受ける。これはサービス事業者の企業モラルというところにも委ねられるわけだが、行政としてしっかり指導すべきはしなくてはならないと思うので、事業者との連携を深めていく必要があると感じた。もう一度、福祉の専門とやり合いたいと思う。

【参加者】

よろしく願います。

4 地域課題「地域防災対策」について《市提案》

(1) 課題等の経緯等内容説明

【地域防災アドバイザー】(参照別紙資料(2))

(2) 意見交換

【参加者】

防災士でありながら中々研修に参加できておらず、この場を借りてお詫び申し上げます。

お願いだが、一昨年、昨年と消防団として活動しており、広報塔から聞こえてくる音声聞き取りにくいことが多々ある。そうすると、広報の内容が把握できないため、特に高齢の方が公民館に訪ねてみえたり、電話で問い合わせたりする。また、今年の出来事だが、土のうを取りに行きたいが車がない、又は高齢で車に乗らないから取りに行けないと連絡があり、消防詰所横の土のうを個人的に運んで対処した。

その時に思ったのだが、公民館に事の事情が伝わっていないままの放送であるから、余計後手に回っている。消防署にも、放送を聞いた方が多数来て混乱していたということを知っている。

せっかくいいものを配備されたのだから、運用や人的ネットワーク等ソフト面をもう少し拡充していただき、放送される前に、それぞれの所管にどういった内容を放送するかを連絡していただきたい。そうでないと、かえって現場は混乱している。その点を注意していただき運用の実態把握をよろしく願いたい。

【危機管理課長】

今年は、台風が接近した際に、事前広報として「消防署で土のうの配布をしているので、皆さん準備しておきましょう」との放送をさせていただいた。

消防の警防課と危機管理課と公民館等との連携については、今までも災害対策本部や水防本部で確認を取りながらやっているところではあるが、事前配備については連携が取れてないところがあったので、今後は事前の放送等について、公民館また消防警防課と連携を図りながらやっていきたい。

【参加者】

もう一点、先程の介護の話と連携するが、50代や60代でもパソコンやスマホを使われる方は、市のホームページで、今どういう状況かを把握することもできるが、先程公民館にみえた方などは、テレビを見るかラジオを聞くか以外のことは、ほとんど情報が入手できない方ばかりである。ということは放送が全てになる。それが聞き取れない状況はまずいと思うので、相手方がホームページやテレビを見る機会が

あるとか、色々なパターンを想定して広報活動はしていただきたいと思う。そうしないと現場は混乱するのでよろしく願います。

【市長】

本当に大切なことで、今、宇和島市での緊急事態のラジオ放送等、情報の入手については様々な形で取れるように調査研究をしている。高齢者の皆様でも多重に情報が取れるように、見たり聞こえたりというようにしたいと思っているし、防災放送についてもハウリングで反響して聞こえないという時は間引きをしたりしており、より良い広報の仕方をしていくことが当然のことだと思っているので、しっかりやらせていただきたい。

【参加者】

「広報放送をする」という前置きがないので、公民館の方が尋ねられても困っていた。

【市長】

公民館に情報を流せていないのでは、ご指摘のとおり対応ができない。

【参加者】

あの時分には、「避難する場合は公民館へ」とか、「土のうが必要な方は消防署へ」と放送されていた。ところが高齢者の方が聞き取りにくいので、あのサイレンは何だったのか、公民館に行けば情報があると思って来られる。放送の内容について公民館や消防署に前もって情報があれば、こういう内容でしたよと二次的にお伝えすることができるので、事前にFAXやメールを送るなどしてくれたら現場の方は助かる。

【市長】

おっしゃるとおり、これは大切なことであり、申し訳なかった。連絡体制について、ハードだけではなくソフト面の大切さはご指摘のとおりなので、できていないことはしっかり訂正していきたい。

【参加者】

庄内防災士の会長をしているが、この地区は避難指示が出ても、何もないだろうという感じでだいたい避難してこない。そんな人のところに連絡するというのはちょっと難しいと思うので、こんなこと言っただけではいけないが、実際に事故がないと避難指示に従わないのではないかなと思う。

防災士として、実際に訓練等色々やっているが、いつの時点で僕らは出て行って何をしなくてはいけないのか、はっきりしてないと思う。

【危機管理課長】

防災士の活動については、一番は防災の働きが一番大事だと思っている。災害が起こる事前の活動、例えば、防災士と地域の方が協力してマイタイムラインや防災マップを作っていくことで、地域の防災意識の高揚を図っていただくことが、防災士の今後の一番の活動になってくると考えている。

他の地域では防災士が集まって技能習得をするための会を開催し、それぞれの自治会に戻って防災の取組を広めるというような活動をしている。災害現場対応も大事なことではあるが、災害が発生する前に地域の方がどのように逃げるか、対応をどうするか、という取決めを重点的にやっていただければと思うので、よろしく願いたい。

【参加者】

結局ボランティアだけで、実際に公民館への避難指示が出た場合でも活動しなくていいのかな。私自身が手伝いに行きたいと思ってもどこから指示が来るのかな。しなくていいということか。

【危機管理課長】

当然避難所の運営も、地域の自主防災会等でできるような形でやるという現実もある。実際に避難所運営訓練等をやっていただき、地域の方が避難勧告等で集まってきたときに防災士がどう対応するかをやっていただきたいと考えている。

【参加者】

公民館に避難があった時に、どのタイミングで世話をしに来たらいいのかな。

【危機管理課長】

避難所が開設された場合は必要に応じて、危機管理課から防災士にもご連絡するような形になる。特に長期化するような場合は、防災士の力が必要になってくるかなと思う。

【参加者】

色々お手伝いしたいと思うが、要請がなければ行ったらいけないのかな。

【市長】

ちょっとだけ考え方を覚えていただきたいところがあって、今、防災過保護という言葉が出てきている。自分の命を行政に任せるのか？ということ。災害の情報もしっかり発信していかなくてはいけないのだが、その情報を取りに来てもらうことも大切になる。

そして、地形や住宅の状況など地域によって災害時の対応は違ってくるので、地域ごとに防災士がいらっしやると思うが、そこを中心に、説明をしたマイタイムラインをそれぞれの地域の皆様に話し合ってもらっていただく必要は一つあると思う。

併せて、例えば基準をしっかりと示したうえで、自分の地域用にアレンジをしてもらうようなことをしていかなければいけないのかと思う。

【参加者】

せっかく訓練してもあまり役に立ってないように感じている。避難所を開設するなどの事例がないし、避難して来いと言っても来ない

【市長】

一番悩ましいのは、先程の話に戻るのだが、情報はとにかく伝えなくてはならない、これは行政の責任だと思っている。だから届かないではなく、届けるということがまず大切だと思っている。

そういった中で、例えば、玉井が防災無線で「逃げてくれ」と言っても、市長が庄内のことをわかっているのか、とこうなる。避難の呼びかけは色々な形でやっていかなくてはと思っており、この前にも加茂川の流域だったが、高齢者に避難を呼びかけたが逃げない。しかし、例えば自治会長や、向こう3軒両隣の近所同士で「そろそろ危ない、逃げよ」と言う方がリアリティがあるのではないかと。

自分の命を行政に任せますか？というの、地域でも考え直してもらわないと、行政で全て助けることはできない。正しい情報をしっかりと伝えていくので、それぞれの地元でも事前に話し合ってもらって、避難訓練も訓練以上のことはできないのが人間の習性なので、色々な形の想定をしながら訓練を繰り返さなくてはならないと思っている。

これだけ激甚災害が発生しているので、どんな災害が起こるか様々なことになってきているが、避難訓練、情報の取り方、そして、いつどのように動くかというのは、ガイドラインを参考にしながら自分達のアレンジをしてもらわなくてはならないということが私の意見である。

【参加者】

手伝いたいのだが、自分だけが出て行って何かしても、防災士が出て行っても変な感じになるのではないかと。自治会長から連絡すれば出て行って私達も色々お手伝いするつもりなのだが。

【参加者】

やりたいという気持ちはわかるが、庄内の防災士会で一回どうするかを酒でも飲みながら話し合ってみてはどうか。そこから自分達はどのようにいったらいいのかと、この問題については市にお願いするとか、自分ら防災士は自分らで庄内のことをやろうという話し合いができてないのではないかと。

【参加者】

連合自治会の中に防災士会を参加させてもらって、自主防災会を立ち上げてもらわないと、防災士が個人で来て何だという感じになる。責任感が強すぎるのだろうか。

【参加者】

大事なことなので、連合自治会長もいることだし、これはまた次の機会に話し合いしよう。

【危機管理官監】

防災士の活動、在り方が問われていると思う。例えば、地区でマイタイムラインを作っていただく等、皆様顔を合わせる場をできるだけ作っていただきたい。その中に防災士も市の防災担当者も一緒に入った形で地区防災計画などにもつなげていただき、更に防災訓練をしていただく。

そして、防災訓練も色々種類があるので、この地区にふさわしい訓練の仕方もある。避難所の設営、運営も非常に大切なことで、それも訓練の必要がある。

その中で防災士も含め皆様が活躍する、担う場面が必ず出てくるので、その辺を地区の皆様で相談いただけたらと思う。市としても協力させていただくので、ぜひお集まりいただいて、皆様に防災の意見交換をする機会からまず作っていただきたい。

【参加者】

市長が言われたとおり、私も以前消防団で分団長をしていた時分に、避難してくれないのだがどうしようかと、と団員から相談を受け、団員に危険が及ぶ可能性もあったので、もう帰って来いと言った。

話が変わるが、うちの自治会は危機管理課に避難訓練の要請しているのだが、自治会としてはどのような準備をしたらいいか伺いたい。

【危機管理課長】

避難訓練については、まずは住民一人ひとりが「まず逃げる」という意識を持ってもらい、既に決まっているかもしれないが、地域で集まる場所を決めていただいて、そこに集まって、誰が避難して来ているかを確認できるよう名簿を作成していただく準備をしていただきたい。市はそれに合わせて、集会所から避難の放送等をする等のお手伝いさせていただきます。まず、自治会には名簿の作成をお願いしたい。

集まった後に配布する資料、例えば、どういう物を持って逃げるか等の資料は危機管理課で準備させていただく。

【参加者】

消防団では、資機材の点検を月1回行っている。公民館や小学校、中学校に防災倉庫ができていますがメンテナンスはどなたが担うような形になっているのか。

ガソリンなんかは1年もほったらかしにしておくと思えなくなるので、消防団では1年に1回は携行缶のガソリンは車両に移し換えて新しいガソリンを入れているが、メンテナンスをしている様子を見たことがないので、決まりがあれば教えていただきたい。

発電機等が入っているようなので、皆さんに聞いていただいた方がいいかと思う。とりあえず、入っている物はわかっているが、年に1回必ず更新していないと、とっさには使えない。

【危機管理課長】

管理については各施設の管理者にお願いをして見てもらっている。

ただ、その中の物品を注意深く確認している方もおられるが、地域によっては全く何が入っているかわからないという方もおられるので、そういう方も含めて、防災訓練の場を通じて何が入っているのか、どういった使い方をしたらいいのかということ危機管理課の担当者が説明していきたいと思っている。

【参加者】

私は自治会長、防災士、民生の会長もしているが、市長が言ったように、私が逃げろと言っても公民館まで来る道中が怖いと言って逃げない。だから早めに逃げましょうと言ってもなかなか避難しない。そこで、どうしたらいいのかと聞くと、ヘリポートや泊まれるような広場があれば、そこまで車で行って一時避難できるので、そういった広場を作ってほしいという要望がある、もっと欲を言えば、そこに仮設の避難所を建ててもらえれば、もっと早く避難できると思うので、一つ前向きに考えていただきたい。

【市長】

箱物がすぐできるということには中々ならないが、先程意見もあったように、集合場所を一つ決める話し合いからスタートだと思う。まずはどういった災害が起こるかを想定した防災マップを参考に話し合う。岡山の真備町の防災マップはよくできたもので、浸水地域と川やエリアがしっかり重なっている。これは、やっぱり信じる一つの物だと思っている。

そういった中で、それぞれの地域で集合場所はここにしようというのは、やはり話し合いの中で決めていくべきだと思う。そこで次に建物という話になれば、そこはどうしますかということになる。一度に建物までいかないと思うが、一時避難は非常に大切なことなので、それでもというところは少し相談させてもらえないか。

そして、避難所で赤ちゃんが泣くことが心配だと意見があるが、当然その時には地域全体が助けていかなければいけないことだし、紙おむつやミルクをどうするか等で相互応援しながらやっていかなければならない。命には代えられないので、しっかりサポートしていきたいと思う。ペットの避難の関係も、先の市議会で議員からも質問があったが、これもしっかり周知しておかないと、家に残して避難してしまったということになるので、ペットも受け入れるような施設を作っていきたいと思う。避難所に遠慮はいらない、ということをおきたい。

【司会】

避難広場については、事務方の協議がスタートということでよろしいか。

【参加者】

良い。場所的には皆さんと話し合っていて、大体の選定はしているが、何せ山際に民家が建っているので土砂崩れが心配だが、安全なところも皆は知っているの、そこは皆で話し合って要望していきたい。感謝する。

【市長】

危機管理課職員は、早速入るように。

他の地域もあると思うので皆様は遠慮なく相談してほしい。

【参加者】

危機管理課に河之内も放送塔を3箇所お願いしたが、山の反響があり、また大雨の時は皆雨戸を閉めているので、ほとんど家の中は聞こえない。かなりの予算がいると思うが、千葉県の記事のニュースを見ると、防災ラジオが有効なのではないか。私達のような僻地は特に努力していただけたらと思う。

【危機管理課長】

現状としては、今、テレビの電波は結構どこでも入るが、FMラジオ等は音波が入らないところも出てくる。はっきりした答えは申し上げにくいですが、テレビ電波を使った周知方法がないかということで検討中である。

【市長】

南海放送のAMラジオは、途中で遮って放送を入れることもできるので、皆様がラジオを持っていただき情報をキャッチしてもらおうことも、ありだと思う。

また防災ラジオは宇和島市の場合等、例えば半額の自己負担を出してもらおうというところもあるようなので、先ほど意見で言っていたいただいた多重に情報を仕入れる方法ということでは、非常に大切だと思っている。テレビ、あるいはラジオ、そういったことは考えていかななくてはならないと思っているので検討を進めていきたい。

5 まとめ・閉会

【市長】

初めてのタウンミーティングということで、十分ではなかったかもわからないが、ここから次に向かって継続的にやっていただければありがたいし、私達も呼びかけていきたいと思っている。

意見交換の中でも色々出たが、今、地域づくりは非常に大切で、人が減って行って地域の世話をする役割が高齢化・固定化してしまい、しんどくなってきているという実態もある。他の地域でのタウンミーティングでも愛護班をどう運営するか、PTAと連携できないか、そういった意見もあった。これからは話し合いや連携が課題解決の一つのツールになってくる。もう一度原点に戻っていききたいと思っているので、どうか引き続きよろしくお願ひしたい。本日は感謝申し上げます。

【連合自治会長】

本日はお忙しい中、市長や地域の皆様にご出席いただき、庄内地区に関する防災や地域内の事について市長にお伝えし、またお互いにも知ることができたと思う。これからも継続していけたらと思うので、よろしくお願ひする。また、行政の皆様には活動に際しこれから色々と相談や支援をお願ひする。

今後も市と協力しながら、住民同士が支え合える地域づくりを目指し盛り上げていけたらと思うので、よろしくお願ひする。皆様、本日は本当に感謝する。

(閉会)

<タウンミーティングの様子>

